

W 2 - 5

成分採血における採血中断例についての一考察

福岡県赤十字血液センター

小金丸智子 村上和子 白木洋 前田義章

はじめに：成分採血においてアフエレーシス装置の故障、使用する血液回路等の不良、装置の操作ミス等により、採血中断に至る事例を経験することがある。今回我々は、これら採血中断に至った事例について調査し、それらに基づき日常的な成分採血装置の管理について検討したので報告する。

方法：①調査期間：1997年10月から1998年9月までの1年間 ②対象機種：当センターにおいて、年間2000例以上使用している Fenwall CS3000、Fenwall Amicus、HM Multi、HM ULPCS

調査方法：採血中断に至る原因を次のように分類し検討 (A)センサー等の機械回路の不良に基づくもの (B)血液回路等のキット不良に基づくもの (C)装置の操作ミス等に基づくもの

結果：①採血中断例は、血小板採取で21,983例中229例(1.04%)、血漿採取では17,088例中54例(0.32%)であった。②1台の成分採血装置が1,000回稼働した時の採血中断の発生頻度は、(A)CS3000 3.02、Amicus 4.31、Multi 1.19、ULPCS 1.29 血小板採取では、(B)CS3000 3.55、Amicus 24.0 Multi 3.92 (C) 1.40 1.54 0.48、血漿採取(B)ULPCS 1.15、Multi 1.90 (C) 0.72、1.27であった。これらの結果を踏まえて、これからの成分採血装置の維持管理と採血業務に役立てたい。

W 3 - 1 ネフローゼ症候群に対するリンパ球除去療法の検討

金沢大学第1内科，血液浄化療法部

○清水美保，久田幸正，古市賢吾，和田隆志，高桑 浩，伊勢拓之，
横山 仁，小林健一

【目的】ネフローゼ症候群における蛋白尿発現にTリンパ球由来の糸球体透過性亢進因子の関与が指摘されている。微小変化型ネフローゼ症候群(MCNS)，巣状糸球体硬化症(FGS)ならびに膜性腎症(MN)に対してリンパ球除去療法(LA)を試み，その効果を検討した。【方法】ネフローゼ症候群5例(MCNS2例，FGS2例，MN1例)に対し，Cellsorba(旭メディカル)を用いて週1回2週連続のLAを施行した。【結果】本療法により，症例1(MCNS，61歳男)，症例2(MCNS，15歳女)および症例3(FGS，24歳女)の1日尿蛋白はそれぞれ14.8gより6.8g，7.0gより4.9g，10.6gより3.2gへと減少した。その後，症例1はプレドニゾロン(PSL)40mg/日，症例2，3はステロイドパルス療法に加えてPSL20mg/日およびシクロスポリン(CyA)3mg/kg/日の投与により尿蛋白は1.0g/日以下へ改善した。一方，症例4(FGS，34歳女)ならびに症例5(MN，74歳男)では蛋白尿の改善はみられず，PSLおよびCyAにも抵抗性を示し，腎死あるいは感染症による個体死に陥った。【結論】LAに対する反応性がネフローゼ症候群の基礎にある病態の相異を反映し，免疫抑制療法に対する反応性ならびに疾患予後と関連する可能性が考えられた。